

「大磯町まちづくり基本計画後期計画（原案）」に係る住民説明会における 住民からの意見について

○開催日時：令和7年10月25日（土）午後2時～3時50分

○「大磯町まちづくり基本計画（原案）」に対し、住民から頂いた意見について、次のよう
に対応した。

計画 ページ	住民からの意見	対 応
3-19 3-42	小磯地域4．地域らしさを守り育む方針に「地区計画等の活用」との文言がある。具体的なエリアが示されていないが、実際にここで地区計画は行うことができるのか。 地区計画を策定するのには時間がかかることはわかるが、即事業化できるような、スピード感を持った計画にしてほしい。 国府北地域で地区計画を検討しているようだが、西小磯でもできるということではないか。	今後、西小磯地域の住民から具体的な計画の案が出されれば、策定に向けて、町としてもしっかりと支援してまいります。
3-19 3-42	遊休農地の活性化について追記しているが、これはもともと（素案で）なかったフレーズである。自分としては農振を外して新たな土地利用を図れるようにしてほしい。	遊休農地の活性化については、委員からの意見もあり、農政部局と協議し追記しました。町の方針としては、あくまで農地としての活用を目指すべきと考えます。 なお、農振の解除については担当部局に伝えさせていただきます。
—	人口減少の課題について、意見がある。出生数が減っており、調べたところでは昨年生沢では7人が出生したが、全員馬場地区に属する住民だった。次の6年で小学生が0人になることになる。 地域の維持のため、新たな住宅地を開発して新たな住民を呼び込んでほしい。	御意見として参考にさせていただきます。
—	寺坂地区の児童のバス通学について、補助金がもらえないと聞いた。ぜひ補助をいただけるようにしてほしい。	本計画と直接関係する内容ではないため、関係部署に伝えさせていただきます。

計画 ページ	住民からの意見	対 応
—	人口配分が大磯地区 55%、国府地区 45% なのだから、国府本郷にもっと人口が増えて良いと考える。町を維持するために、西小磯西地域など真ん中に中心があるべき。農振は取り払うべき。	御意見として参考にさせていただきます。
—	町が抱える課題の根本は「人口減少」「少子高齢化」であると考えている。国全体で人口が減っている中で、行政間での人口の取り合いになっている。大磯に有効な手段が欲しいと考えるが、藤沢市のような都市部と比較するのはナンセンスだと思う。 若い人が集まれる場所があれば、子どもたちが増えやすいのではないかな。	人口減少と少子高齢化が大きな課題であることは承知しています。まちづくり基本計画だけではなく、大磯町全体として「総合計画」でも取り上げている課題となっています。
—	人口の高齢化に対する対策は5年後を待ってられない。高齢化と交通インフラは切り離せられない。どこかの町では、ケーブルテレビで受け付け品物を配達し、別のところではドローンで配達といった取り組みを見た。そういった新たな取り組みも必要では。	現在、別の部署で食料品や生活用品の移動販売について、事業者と調整しています。
—	人口減少対策は早くやらないと間に合わない。大磯地区では年間出生数 40 人いたが、国府地区では 31 人しかいない。 町の真ん中に施設を集めてほしい	御意見として参考にさせていただきます。
—	小磯地区の消防庁舎は農振地区に入っている。公共施設だから外せるのか。今後を注目している。	農振を解除して消防庁舎を新築する方向で担当部署が協議しているところです。